

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立羽津中学校

校長 天野 智裕

## 1 コミュニティスクール(運営協議会)のねらい

- (1) 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために、協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流しあいながら、地域コミュニティづくりを推進する。
- (2) 教育活動を学校評価に基点を置いたものとする。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させるとともに、その評価等を参考に改善に努め、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進する。
- (3) 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域全体で子どもを育てよう」とする気運を高め、「地域とともにつくる学校」の推進を図る。

## 2 コミュニティスクール(運営協議会)の実践について

### (1) 教育活動の実践事例

#### ① 地域の方々に感謝の心を！伝統行事の「山のコンサート」

本校の伝統行事「山のコンサート」は、1998年に本校近くの垂坂公園羽津山緑地が整備されたことを機に、本校の伝統である合唱を、地域の方々に聴いていただくという目的で、野外でのコンサートとして実施したものである。以来、当コンサートは地域の方々にも愛され、これまで22回開催している。



#### ② 地域主催の「いのちの授業」

いしが在宅クリニック理事長の石賀丈士先生を講師にお招きし、3年生を対象に「いのちの授業」と題した講演会を実施した。この講演会は、羽津地区まちづくり推進協議会の人権教育部会のご協力により実施することができた。講演会には、人権教育部会の方々にも参加いただいた。講演では、クリニックを開業したきっかけやこれまでのご経験をまじえて、わかりやすく終末期の医療、家で看取る重要性などについてお話をいただいた。子どもたちにとって、「いのち」とは何か、「生きる」とはどういうことか等について深く考える、貴重な学習の機会



となった。

### ③ 「はづっ子カウボーイ」の発表

集会で、「はづっ子カウボーイ」の皆さんに、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みについて発表してもらう機会を設定した。「はづっ子カウボーイ」とは、



夏休みや春休みなどを利用して、地域の介護老人保健施設や多世代交流サロンなどで、高齢者との交流を行っている羽津地区の子どもたちのグループで、本校生徒の数名が参加している。これまでの「地域の高齢者に笑顔を届ける活動」や、高齢者のために「羽津地区の防災マップ」を作成した取り組みについて、マレーシアやインドネシアなど海外との交流をオンラインで行ったことを、英語と日本語で報告してくれた。子どもたちは、本当に素晴らしい取り組みだと、しきりに感心している様子だった。

### ④ 東京オリンピック聖火トーチ体験

東京オリンピックの聖火ランナーとして、鳥羽市の答志島を走られた羽津医療センターの石井雅昭医師の、子どもたちに本物のトーチを見せて触らせてあげたいとお気持ちから、聖火トーチを中学校にお貸しいただいた。各学年集会で校長から聖火トーチについての紹介をした後、子どもたちは実際に聖火トーチを触らせていただいた。本物を見て、本物に触れるという、子どもたちにとって、とても大きな意味を持つ体験活動であった。



## (2) コミュニティスクール(運営協議会)の取組による効果

これまで本校の学校づくり協力者会議は、自治会・まちづくり関係者、地域関係諸団体役員、PTA 顧問等を含む5名の委員で構成されていた。そこに PTA 役員等の保護者代表を加えた8名体制でコミュニティスクールをスタートした。年間4回の会議を実施し、保護者や地域住民の学校教育活動への参画のあり方を協議した。年度当初には「学校づくりビジョン」についての説明を行い、教育目標・めざす子どもの姿・めざす学校の姿について協議を行い、理解を求めるとともに、学校教育に対する地域の協力を依頼し、学校づくりの基本方針や計画等について共有を図ることができた。

## 3 今後に向けて

本年度からコミュニティスクールが始まったが、コロナ禍のため、様々な活動に制限があり、羽津山緑地公園で地域の方々に子どもたちの合唱を聴いていただく、本校の伝統行事である「山のコンサート」や、地域の方をゲストティーチャーにお迎えして実施する予定であった福祉体験、読み聞かせ、除草作業等が中止となった。来年度は、感染症対策を講じながら、少しでも生徒の体験を含む活動が実施できるよう計画的に進めていきたい。